

いじめ防止スローガン
みんなで子育て よく見て、よく聞き、よく話そう！
見逃しません、子どもの小さな変化
ためらいません、子どもとの対話
連携します、家庭・学校・地域

さいたま

令和2年8月6日
発行 さいたま市PTA協議会
編集 広報情報委員会
事務局 さいたま市大宮区吉敷町1-124-1
大宮区役所 4F
TEL 048-647-4401
印刷 株式会社エース広告

家庭・学校・地域 今こそより一層の連携を！ ～光のある未来に向けて～

さいたま市PTA協議会の皆様におかれましては、日頃から、本市の教育行政に御理解、御協力を賜り、誠にありがとうございます。

子どもたちの健全育成のために、家庭・学校・地域、そして、行政を結び取り、様々な活動に献身的に取り組まれていることに、対しまして、心から敬意を表する次第でございます。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の臨時休業という大変苦しい状況が続いた中で、子どもたちを支援していただき、さらには学校や教育委員会の取組に御理解、御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式」が求められている中、さいたま市立学校では、6月1日から、専門家の監修のもと改訂した「新型コロナウイルス感染症に対応したさいたま市立学校教育活動実施マニュアル」

さいたま市教育委員会 教育長 細田 眞由美



令和2年度 常任理事

新役員紹介

会長	岡野 育広 (西原中学校)	副委員長	遠藤 孝明 (桜木小学校)
副会長	和野 伸信 (北區橋中学校)	委員	池田 拓矢 (岸中学校)
常任理事	佐久間健志 (西區指申)	委員	渡辺 康子 (岸中学校)
	中村 宏也 (北區橋中学校)	委員	渡辺 智美 (岡田幸太郎)
	横田 松博 (天宮区大南小)	委員	田中 淳人
	石川 淳 (東區区東小)	委員	
	山崎 景子 (中央区南大宮中)	委員	
	溝口 崇 (東區区東小)	委員	
	横田 松博 (天宮区大南小)	委員	
	中村 宏也 (北區橋中学校)	委員	
	伊藤 寛 (緑区三幸中)	委員	
	赤谷 弘二 (浦和区上木小)	委員	
	植村 嘉明 (南区大宮小)	委員	
	伊藤 寛 (緑区三幸中)	委員	
	岡野 育広 (東區区東中)	委員	

コロナ禍の今、学校はどうなっているの？

小学校校長 石井 寛 先生
中学校校長 長島 庸夫 先生

みなさんが気になる所を伺ってみました。詳しくは中面を御覧ください。

令和2年度定期総会

令和2年度定期総会は、6月20日(土) 市民会館をおみやでの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面とオンラインフォームでの投票による審議とした。令和元年度の事業報告・会計報告、令和2年度の会則一部改正及び規程追加、役員選出、事業計画案、予算案が全て賛成多数で承認決議された。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で異例な幕開けとなったが、166校がワンチームとなりしっかり連携をとっていくことをこころざし、昨年度に引き続き、岡野育広会長のもと、新体制がスタートした。

各校連合会に寄り添った提案をさせていただき、PTA協議会としての歩みを止めることはありませんでした。今年度は、昨年からの基本方針である「さいたま市の宝である子どもたちの健全育成を目指し、共に学び、共に成長するPTA活動を実践する。」について、引き続き子どもたちの事を第一に考えたPTA活動を進めて参ります。今年度も、会員の皆さまのご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

さいたま市PTA協議会会長 岡野 育広

会長あいさつ

昨年度に引き続き、さいたま市PTA協議会会長を務めさせていただく事になりました。岡野です。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度3月、新型コロナウイルス感染拡大に伴う措置として、学校の臨時休業は3ヶ月間にも及びました。この間、各学校のPTA活動も自粛や縮小を余儀なくされ、さいたま市PTA協議会でも、多くの事業を自粛し、中止や延期となりました。しかし、その間にも、「出来る事をする」を合言葉に、本会では仲間である各学校の単位PTAや

さいたま市PTA協議会 無制限で補償

※ご家族全員が対象 ※国外は3割まで補償となります。

示談交渉サービス付き ※示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。国内のみサービスのサービスとなります。

小学5年男子児童の自転車衝突で母で約9,520万円の賠償金(神戸地裁判決)

取扱代理店・扱者
AIGパートナーズ株式会社 さいたま支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL 0120-991-341 (通話料無料)
(受付時間:9:00~17:00 土、日、祝日、年末年始を除く)

令和2年度 さいたま市優良PTA団体表彰校 決定!

さいたま市立上落合小学校

PTAって、おもしろい仲間ができて楽しい輪

平成26年度より取り組んでいる「PTA働き方改革」の歩みとして活動を見える化、ITリテラシー、自分ごと化の三段階に分けて委員会アンケートの意見などを交えて広報紙にその全画像を掲載した。現在は第二段階であり、オンライン会議やWEBアンケート、PTA室予約アプリの利用など、多様なICTを駆使して活動のスムーズ化を図っている。その中で、講座の申込みのQRコードを使うことで、手続が手軽になったり連絡や集計が楽になったりと、参加者と委員双方が作業負担軽減を実感しているとのこと。また、も一つ一つの課題であった共働き家庭の参加しやすいことを追求して、「花いっぱい運動」や「星空観望会」、「納涼映画会」など平日や夜間の活動を増やしている。これらは親子での参加機会を増やすこともつながり、家族のコミュニケーションがさらに深まったという話も聞かせていただいた。これからは地域との協働も活発で、夏祭りでは学区内を練り歩く子供輿渡御を安全に行うため、また盆踊りでは夜間の防犯のために、教職員と保護者が緑のバックロフトに活用し、一緒にパトロールにも参加している。多くの目もって児童の学校外活動の安全を確保している。

岡野雅代会長は、「改革の最終章として自分ごと化をどんな形に仕上げようか、日々想いを巡らせている。この思いを巡らせている。この思いを巡らせている。この思いを巡らせている。」と胸を張った。

さいたま市立大宮東小学校

地域がとてもしっかりしている学校

さいたま市立大宮東小学校では、学校と地域の連携協力が円滑に行われ、特に児童の安全を守る取組において、家庭・学校・地域の安全意識の向上とともに、地域の各団体との密接な連携を図っている。登校時の立哨活動、下校時の防犯パトロール等、地域と一体で子どもたちを見守る活動を行い、その実績が認められ昨年は、埼玉県知事より感謝状を授けられており、活動の励みとなっている。

また、青少年育成大宮東地区会と協力し、クリーン活動を実施し、地域の環境整備活動を行っている。さらに大宮区連合会の事業の一つである「絆缶(アルミ缶回収)プロジェクト」では、大宮区小・中学校16校中2番目の回収率で、被災地支援活動にも貢献している。資源回収では、これまででは会員の方々が地域を回って集めているが、業者が個別回収するようになり、労働が軽減された。

長坂兼一前会長は、「本校は、「地域がとてもしっかりしている学校」であり、本校の児童は、「地域がとてもしっかりしている子どもたち」である。地域の方々のそういう想いを、いつまでも大切にしてほしいと願っている。」と今後の意欲を語ってくれた。

さいたま市立見沼小学校

地域と共に学び活動するPTA

動きの早さと、それぞれの得意分野を行なった役員活動が見沼小学校PTAの自慢だ。昨年は、学校、自治会と連携し、通学路の危険箇所について「通学路注意」の看板を設置した。また、学校連合協議会で上がった「挨拶の声が聞こえない」との課題に対しては継続して、様々な取り組みを行っている。PTA専用地区の元元踊りである「東大宮音頭」を取り入れ、地域への感謝を感じながら会場にいる全員で踊り、一体感を味わっている。

卒業生、入学式には地域の皆さまと共に通学路に思い思いのお祝いの掲示を行い、校門では、東大宮見沼地区自治会連合協議会の方々が子どもたちの門出を祝って下さった。(写真②)

川名恵子前会長は、「このような活動が行えるのは、これまでPTAに関わってくださった皆さまが築かれた連携の賜物と感謝しています。思いやりのあふれるこの地域で、今後も家庭、学校、地域と連携して子どもたちを支えて参ります。」と語ってくれた。

令和元年度さいたま市PTA広報紙コンクール

令和2年4月4日(土)、令和元年度広報紙コンクール現地審査会を、市民会館おみや第5集会所にて開催した。

本年度応募作品は、小学校54校、中学校・特別支援学校23校と、合わせて77校からの応募があった。

例年は、集会所に審査員が一同に会し「閲覧、採点、集計、発表」を行っているが、新型コロナウイルスの影響から本年度は初めて審査方法を分け

- ①全寮開放、間隔をあけて着席での現地審査(少人数)
- ②PDFデータによる自宅審査
- ③事務局での事前審査

審査基準にのっとり、公正かつ厳正な審査が行われ、日本PTA全国協議会広報紙コンクールに出品される小学校6校、中学校4校の上位10校の優秀賞と、小学校9校、中学校6校の佳作15校が選ばれた。

さいたま市立見沼小学校

子どもたちに貴重な体験を提供

大砂土東小学校では、子どもたちに普段の生活では味わえない体験をしてもらうために、毎年、地域のスポーツ団体や青少年育成大砂土東地区等の地域の方々と協力して「松の子まつり」を開催し、ゲームコーナーやヨーヨー釣りといった模擬店の出店やバザーが行われていた。そこで得た収益で開催される「松の子鑑賞会」では、専門家を迎えた音楽鑑賞会や演劇鑑賞会が実施されているが、単に鑑賞だけでなく時には子どもたちが巻き込んだ参加型の鑑賞会も登場している。大変喜ばれている。

また、登下校時の安全を確保するために全パトロールを実施する他、「見守り強化週間」を定期的に実施し、保護者が登下校の時間に合わせた見守りや付き添いなど、それぞれができる見守り方で多くの参加者を得ている。

今回の受賞を受けて、伊藤一久会長は、「大変励みになります。今後も子どもたちのために会をすべきことを考えながら活動していきたい」と抱負を述べられた。

PTA広報紙の審査を終えて

新型コロナウイルス禍の続く中、感染対策をしながら、無事に審査を終えることができたのは何よりでした。例年と異なり、小学校、中学校の参加作品を審査することはできません。毎年、皆様方の広報紙づくりの思いを拝見している身としては、審査は講評内容を聞かせるか、楽しみでもあります。今年もとても優れた広報紙に出会ったことができた。フロント面から記事を実践させ、2ページ以降の特集記事に導いているもの、出来事情報から企画特集までメリハリをつけているもの、学校内だけでなく地域の情報にも関心を喚起しているもの、写真を多用しながらデザイン性に優れているもの…こうした工夫、努力には頭が下がりました。

また、たくさんの方の中からは発行号によってばらつきのあるものや、保護者などを対象にアンケート調査などを実施しながら見せ方がおもしろいものなど、もったいないと思わせるものもありました。それでも学校の教育活動への支援、充実や、保護者同士のネットワークづくりに役立つ紙面をたくさん読ませていただきました。

新型コロナウイルスの影響で、教育活動にもさまざまな課題、支障が生じそうになりそうです。無理のない範囲で、課題を共有できたり、仲間を励ますことのできるような広報紙づくりに取り組んでいただけたら幸いです。

(総評 日本教育新聞社・矢吹正徳 様)

さいたま市PTA協議会

埼玉県自転車条例 さいたま市自転車条例 に対応しています!

「児童・生徒ワイド補償制度(こども総合保険+自転車総合保険)」

中途加入受付中

団体割引等適用により 保険料が割安!

※本広告には制度の概要のみを記載したものです。ご加入に際しては重要事項説明書をよくお読みください。不明な点等がある場合は代理店までお問い合わせください。

ケガの補償 24時間補償で安心!

- ◆学校内でのケガはもちろん、休日を含め24時間ケガを補償!
- ◆地震等によるケガも補償!
- ◆細菌性食中毒、ウイルス性食中毒や熱中症による死亡・後遺障害・入院・手術・通院も補償!

病氣補償プランは補償期間中の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発病による入院も補償の対象となります。

ご好評につき、「中途加入」を10月末日迄受付いたします。詳しくは左記取扱代理店・扱者までご連絡ください。

扶養者の方が事故で万一の際に 育英費用を補償

高校3年間と大学等の合計で 約953万円の教育費がかかります!

約953万円の教育費がかかります!

出典:株式会社日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果」(平成30年度)

(引受保険会社)
[幹事会社] AIG損害保険株式会社
担当支店: 埼玉支店
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町3-54
TEL:048-641-4050
[非幹事会社] 東京海上日動火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

S-200481 2020年5月作成



岡野育広 市P協会長×
石井 寛 校長(さいたま市小学校校長会会長/大宮小)

コロナ禍における

対談

学校とPTA活動



岡野育広 市P協会長×
長島 庸夫 校長(さいたま市中学校長会会長/八王子中)

司会：新型コロナウイルスの影響で生活環境が変わり、不安を抱えている子どもたちも多いと思います。そういった子どもたちへのフォローは、学校と保護者と連携をとっていかねばならないと思いませんか？

長島：通常とは違う生活環境になり、子どもも大人も皆不安を抱えています。まずは、不安感を共有するところから始まると思います。「みんな心配だね。だから何をしたいかいいのかな」という共通のスタンスでないといけない。ここではこう言われた、あちらでは……。子どもたちの不安を余計に煽りかねないですから。あとは、現状をきちんと受け止めて、みんながこういう状況の中で生活しているんだと思えば、この中でも何をしたいかという前向きな気持ちになれて不安も軽減するでしょう。

岡野：そうですね。全く先が見えない手探りの状態なので、現状を受け入れることが前向きな気持ちに繋がるのでしょうか。

長島：手探りの状況の中で一番基本的なスタンスになるのは「不易と流行」という言葉があります。その視点に沿って今、言われている「新しい生活様式」を考えてみる。これは、昔ながらの人と人との付き合いを見直すことにも繋がると思いますが、お互いのことを気遣いながら生活をするとか、お隣さんや人様のことを考えながら生活をしていくというのがずっと昔から続いています。それが本当に、今回の「新しい生活様式」でも同じことだと思っています。自分を大切にすると周りの人も大切にしていけるために感染防止に努めるわけですからね。「新しい生活様式」の大部分は、昔から日本人が心がけていた生活だと感じます。

岡野：人と人との繋がり、気遣い、人として一番大事な部分ですね。社会で生活しているわけですから保護者としてもいかに自分がどうお考えですか？

司会：新型コロナウイルスの影響で臨時休校にもなりました。学習面や生活面などについて不安を抱えている子どもたちへのフォローは、学校と保護者と連携をとっていかねばならないと思いませんか？

石井：臨時休校は3月から突然始まり、新学期もほとんど子どもたちに会えない状態のままスタートしてしまいました。

新年度は当然、先生も変わります。クラス替えもします。そういった面が、まず皆さんの初めの不安だったのではないかと思います。ですので、どの学校でも新しい先生からメッセージを届けたり、課題を出すだけではなくその中に想いを盛り込んだりということを通して、何とか繋がりを持とうとしました。

また、今回は学校において頂くことも難しく、メールやホームページなどの発信が中心となりました。学校の立場からしますと、学校が出すメッセージには意図がございます。保護者の皆さまにはその意図を踏まえつつ、なるべく大らかな気持ちで過ごしていただくことが、お子さんの心と体の安全にも繋がると思っています。

岡野：そうですね。突然の臨時休校が始まり、いつ再開するのか観点になっていく中、保護者代表の立場としてもどう先生方とコミュニケーションをとるのがいいのかわかるといっていいですね。

先生方も保護者も不安の中先が見えない手探りの状況で新学期が始まり、やはり大人が不安そうにすると子どもたちにも悪影響を及ぼすでしょうから、各家庭でも皆さんそう思われていたのではないかと思います。また、小学校として一番心配したのが入

感染しないかを、子どもや周りの人のためにしっかりと考えていくことが大切ですね。

司会：学校が再開した今、学校ごとに今後どうするかを判断しなければいけない件が多々あると思います。保護者として、なにか協力できることはありますか？

長島：やはり、今はかつてない状況で「例年通り」が通用しないということがあります。これくらいならいいだろうと考えてしまいがちですが、何においても、一番の基礎は子どもたちの安心安全を考慮しながら、感染防止に努めながら、というのを大前提で決めていかなくてはなりません。そういった認識をしっかりと持っていたことが、何よりも大きな協力になります。

第2波、第3波の方が一のことでも見据えて、学校としては対応しなければいけないと思います。

岡野：保護者の皆さんも、こういう時だからというのには十分理解されていると思いますが、やはり、子どもたちにとって最も思い出に残るであろう一度きりの行事だと思つてですね。

ただ、意外と子どもたちも中学生になると大人で、こういう時だから難しいというのちやんと分かっていますよ。

長島：そうですね。できることはやってあげたいという思いですね。

司会：保護者の中にも、多くの不安を抱えている方がいらつしゃるかと思いますが、そんな保護者の方へのメッセージをお願いします。

長島：学習面に絞って言えば、学ばなければならぬ内容は決まっていますので、限られた時間の中でもしっかりと教えていくというのが学校の責任でもあります。学校教育の義務でもありますので、指導法の部分で色々工夫をして取り組んでいきたいと思っています。その手間は教師の本分ですので、しっかりとやっていかねばならないと思います。あとは、勉強という面で広く捉えるのであれば、こういう状況の中で生活していくこと自体が勉強ですよ。これはピンチな

学式の連絡でした。ホームページや安心メールで発信しましたが、はたして新入生のご家庭全てにきちんと連絡が伝わっているか気をつかいました。ただ、近所ネットワークや保護者通しの繋がりの「口コミ」のおかげで、情報がしっかりと伝わったよつで、問題も起きず安心しました。

岡野：お互いのコミュニケーションがしっかりとれていると、こういう時に繋がりの大切さを実感できます。

司会：今回のコロナ禍で、再開後の学習の進め方や学校行事など、学校ごとに判断しなければいけないことも多々あると思います。保護者としてはどのような形で学校に協力できますか？

石井：学校によって本当に色々状況が違います。最終的には校長判断ということですが、保護者の皆さんに対して私共がちゃんと説明をしてご理解いただくことになりました。

ただ、やはり考えが違う方もいらつしゃると思います。そんな時は、疑問を抱えたままにならず、その都度、早いうちにおつしゃっていただいで解決していただくのが、学校としても助かります。是非とんごん声を聞かせください。

岡野：特に文書ですと、読み手の方によつても捉え方が違つてしまうし、その都度、皆さんにご理解いただいた状態で進んでいく方がいいですね。

PTAとしても、保護者で何か手伝えることがあるか、学校によつても状況が違つてしまうから、校長先生とPTA会長でしっかりとコミュニケーションをとっていただければと思います。

石井：学校としては、曖昧な文書は出さないように、やるのかやらないのかこの日はどうなるのか分からない文書の出し方はだめだと思つています。まだ決定でき



んだけれども、ある意味、心を育てたり絆を深めたり、普段は気付かないことに気付ける大切な勉強になると思います。

岡野：そうですね。心を育てるといえば、最近SNSを利用している子どもたちも多くなつたことで、相手の顔が見えない状況で言葉を投げかけるわけですから、相手の気持ちになって言葉をかける、言葉の選び方などもこれを機に今一度しっかりと子どもたちに伝えたいですね。

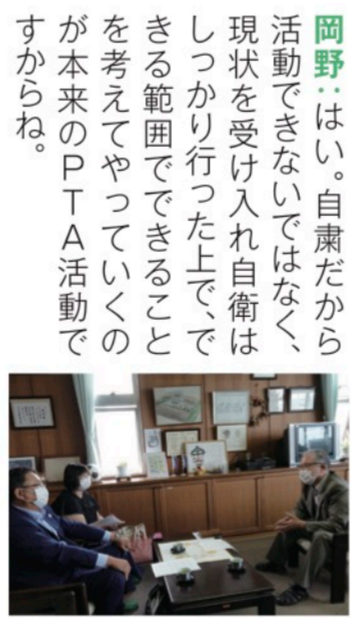
昔と違って、オープンなコミュニケーションではなく見えにくい部分でのコミュニケーションが増えたことで、自分でも気付かないうちに相手をすごく傷つけていたりなどありますから。

長島：SNSを行う機会が増えている今だからこそ、「体は遠く、心は近く」を心掛けなければと思います。離れていても相手の気持ちにしっかりと寄り添い相手を通して学んでいってほしいですね。

そして、SNSが浸透しても、やはりコミュニケーションの基本は挨拶をしっかりと交わすことだと考えます。「おはよう」「行ってらっしゃい」など気持ちよく挨拶を交わすことが、相手を思いやり人と繋がるといふ面で本当に大切ですね。

司会：これらのPTA活動に対して、ご意見を聞かせください。

長島：学校も再開しPTA活動もいよいよ再スタートするときだと思つていますが、肩ひじ張らずに、お互いの声を掛け合つてできる範囲でできることからスタートされると良いと思います。



岡野：はい。自粛だから活動できないではなく、現状を受け入れ自衛はしっかりと行つた上で、できる範囲でできることを考えてやっていくのが本来のPTA活動ですから。

司会：保護者の中にも、多くの不安を抱えている方がいらつしゃるかと思いますが、そんな保護者の方へのメッセージをお願いします。

石井：学習に関しては、土曜授業も年8日行うことに決まり、小学校でいえばやり方を工夫すれば大丈夫です。安心なさつてください。

岡野：大丈夫だとおつしゃつていただきましたが、やはりそこには先生方の労力がかかってくるわけですから、保護者はその辺のことも理解して協力しないですね。

石井：親御さんが不安に思つていらつしゃるとお子さんにその気持ちが移つてしまいますから、学校としては大丈夫だとしてお伝えしたいと思っています。

ただ、今後また臨時休校になるようなことがあれば、それも叶わなくなつてしまいますので、とにかく、大人は節度を持ってしっかりと自己防衛しながら過ごす意識をもつていかないとですね。

司会：これらのPTA活動に対して、ご意見を聞かせください。

石井：今回のコロナ禍で、PTA活動も良い見直しになったかとは思っています。削れる部分は削つていくと協力できる方も増えるとは思っています。

ただ、いずれにしても、PTAという組織と校長は連携し、協力体制がしっかりとできていないと上手く回っていきませんから、お互いを尊重し合つて、子どもたちのためにという大前提の認識を持って進めていければと思います。

誰もが初めて経験をするコロナ禍の難局ですが、皆で力を合わせ乗り越えて行きたいですね。石井先生、長島先生、ご協力ありがとうございます。

Stop! コロナ差別・いじめ

連日のように東京都では過去最高のコロナウイルス感染確認が更新されています。それに伴い近隣であるさいたま市でもコロナウイルス感染に対する引き続きの注意が必要です。さいたま市でも児童生徒が感染したとの情報が入り、ご本人はもちろん、ご家族や関係者の皆様のお気持ちをお察しし、一日も早い回復を願うばかりです。

新しい生活様式といわれる「ウィズコロナ」とどう向き合っていくのか、皆さんも日々手探りで聞いているのではないのでしょうか。

そんな中、感染者やその家族、最前線でウイルスと闘う医療従事者、物流を支える運送業者などに対する差別やいじめが社会問題化しています。

「恐れるべきはウイルスであつて人ではない」ということを、子どもたちのそばにいる大人(PTA)が正しい知識と行動で示す事が差別といじめをなくす第一歩です。感染された方々が一日も早くお元気になりますよう、心から願っております。

さいたま市PTA協議会HPより

新型コロナウイルス感染症 対策

「新しい生活様式」を踏まえた家庭での取組

新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守り、お様が安心・安全な学校生活を送ることが出来るよう、ご家庭においても「新しい生活様式」を踏まえた取組にご協力をお願いします。

1. 毎日の健康観察
2. 手洗いの励行
3. 咳エチケットの徹底
4. 3密の回避
5. 抵抗力を高める

毎日、登校前にお子様の健康観察(発熱や風邪症状の有無の確認)を必ず行う。

・発熱等の症状がある場合は、自宅で休養させる。

・感染がまん延している地域は、学校からの依頼に基づき、同居のご家族に発熱等の風邪症状がみられる場合には、登校を控える。

・家に帰ったらまず手や顔を洗う。

・手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う。(手指消毒薬の使用も可)

・咳、くしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえる。

・「密閉」「密集」「密接」の回避

・免疫力を高めるため、十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事を心がける。



学校生活の中でいかに感染防止を徹底しても、仲の良い友人同士や家庭間の行き来や家族ぐるみの交流を通じて感染が拡大してしまうと、学校全体の教育活動が出来なくなってしまうことがあります。特に会食の際には、対面を避けるなど、「新しい生活様式」を参考に工夫していただき、感染が広がらないようにご配慮をお願いします。